



博物館学実習風景

飛鳥資料館が博物館学実習生の受け入れをおこなっているということが、各大学関係者に認知されてきたのでしょう。

実習は、展示の実際（構成から展示まで、展示品の借用）、展示解説の実際、博物館と建築史、博物館展示の新傾向、博物館のIT化、新しい博物館学構築に向けて、と題して講義および演習をおこないました。以下、その一部を紹介します。

「展示品の借用」では、展示品貸し借りの際の作法について当館の展示品を例に講義をおこない、演習として展示品の梱包から開梱までを実際に実習生がおこないました。当館の性格からして、発掘調査で出土した遺物（考古遺物）を取り扱うことが多いのですが、実習生のほとんどが考古学専攻ではないために、はじめて考古遺物を取り扱う実習生も多く見られました。

今年度の博物館学実習が、実習生にとって有益なものとなったことを期待します。

（飛鳥資料館 西山和宏）

飛鳥資料館 秋期特別展示 『A0の記憶－文化財建造物保存図－』

今年度、飛鳥資料館の秋期特別展は、「A0の記憶－文化財建造物保存図－」と題して2002年10月8日から12月1日の会期で開催いたします。また、この展覧会に伴って文化遺産研究部建造物研究室長の清水真一による特別講演会「建造物保護の歩みと修理記録等の保存」を10月12日、午後2時から当館講堂にておこないます。

文化財建造物は、建立からの長い年月、所有者の尽力によって保護されてきました。明治30年に古社寺保存法が成立し、国の事業として文化財建造物



群馬県、妙義神社本殿・拝殿・幣殿、側面図

の修理工事がはじまります。こうした修理工事ごとに、綿密な調査がおこなわれ、修理工事報告書とA0版の大きなケント紙に鳥口や面相筆を用いて墨入れした、保存図と呼ばれる図面が作成されます。修理技術者によって永年保存を目的に作成された保存図は、そのすべてが古建築の正確な記録ということだけにとどまらず、図面作品として美術的な側面さえも伴う、貴重な資料となっています。今回の特展では、ほとんど人目のふれることのない保存図を中心に、明治時代から現在に至るまでの修理工事の歴史をテーマとする展示を企画いたしました。

また、修理の際には、腐朽などによりやむを得ず部材が取り替えられることがあります。取り外された古材には、時代の特性を示すものや、銘文を残すものも含まれ、建物と同様の価値を有するものもあります。今回、昭和19年の焼失から現在まで大切に保存してきた法輪寺三重塔の焼損部材を、古建築への理解を深める資料として、展示したいと考えております。

（飛鳥資料館 西山和宏）

佐原 真 元埋蔵文化財センター長逝く

「おはよう佐原です。ちょっと、教えて欲しいのだけど」

佐原コールで知られた佐原真氏が、7月10日朝逝去された。7月20日のお別れ会には、1千人以上の人々が訪れたという。

昭和39年入所の「花の三九組」として、長く研究所に勤務・活躍された佐原氏の業績について、改めて申し上げる必要もないでしょう。考古ボーイとして出発した佐原氏が、縄文時代を手始めにさまざまな分野に領域を広げ、考古学者として大成されることは異論がないところ。その活動の源はご自身の努

力ですが、それとともに誰にでも、気軽に教えを請うという謙虚さも忘れることはできません。

朝夕を問わない佐原コール。その経験は少なくないでしょう。国立歴史民俗博物副館長を経て館長職に就いてからも、そして昨春は入院先の病室からでも。

これとともに見過ごしてならないのが、常に新鮮さを失わない知識欲、子供のような豊かな感受性でした。

「すごいね、すごいね。いろんなことが分かってきたんだね。」

未知への新鮮な驚き、貪欲なまでの知識欲は奈文研時代の誰しも目にしたところです。こうした謙虚さと豊かな感受性は、佐原さんの学問を支える両輪だったのでしょう

「稔るほど 頭を垂れる 稲穂かな」

佐原さんのためにある格言のようです。こうした努力が、佐原さんを大考古学者の高みへと誘ったのでしょう。

普通ならここでご冥福を祈る、と言うべきでしょう。しかし、佐原さんのこと。新しい世界でもきっと、活躍されるでしょう。佐原コールもまた、復活するのに違いありません。

「ちょっと遠い所なので、なかなか通じないのだけど。今、いいかな・・」と。

新世界での、今後のご活躍を祈念して。合掌。

(平城宮跡発掘調査部 金子裕之)



1982.12. 埋文忘年会

【お知らせ】

情報公開施設

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所では、以下の施設が情報公開施設となりました（総務省告示第531号）。

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

図書資料室 奈良県奈良市二条町2-9-1

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

平城宮跡資料館 奈良県奈良市佐紀町

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

飛鳥藤原宮跡発掘調査部資料室

奈良県橿原市木之本町宮の脇94-1

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

飛鳥資料館 奈良県高市郡明日香村奥山601

奈良文化財研究所50周年記念公開シンポジウム

11月9日（土）10:00～ 於：奈良県新公会堂

テーマ『古代建築研究の新たな展開』

申込先およびお問い合わせ先

〒630-8577 奈良市二条町2-9-1

奈良文化財研究所 建造物研究室

TEL 0742-30-6812 FAX 0742-30-6811

奈良文化財研究所公開講演会

11月16日（土）13:30～ 於：平城宮跡資料館講堂

講演題目 「考古学用語のあれこれ」

講演者 奈良文化財研究所長

町田 章

講演題目 「歴史空間を地理情報で覗く」

講演者 平城宮跡発掘調査部考古第二調査室

金田 明大

講演題目 「巨大建造物は足元が肝心

－平城宮第一次大極殿の基壇－」

講演者 平城宮跡発掘調査部遺構調査室

平澤 麻衣子

（編集後記）

奈文研ニュースは、調査研究の成果を主たる内容とし、写真を入れて分かりやすく解説をしてきました。「No.6」を迎えた本号から、お知らせのコーナーを設け、執筆者名を入れることとしました。今後も体裁を工夫した情報誌としたいと考えています。

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所

jimu@nabunken.go.jp

<http://www.nabunken.jp>

